

現行のアナログ放送は 平成23年7月終了です

デジタル化を進める総務省は平成23年までに、「地上デジタルテレビ放送」を完結させるといつています。それまでは現行のアナログ放送も並行して見ることはできますが、平成23年7月24日には終了することになっています。つまり、今あるテレビや受信施設など、アナログ放送対応のものをあと5年ですべてデジタル対応型に変えなければなりません。

放送が映らない 難視聴地域の課題

「見るテレビから使えるテレビへ」と新たな時代へ進む「地上デジタルテレビ放送」。CD（コンパクトディスク）やDVD（デジタルバーサタイルビデオディスク）など映像や音響のデジタル化が定着する中、携帯電話などの普及で混み合、落合などの難視聴地域に共同アンテナを設置し、

合う電波の効率利用にも役立ちます。

しかし、日本全国には現行のアナログ放送でも、山間地やビル群などの影響で電波が届かなかったり、乱れる「難視聴地域」があります。そこでは共同アンテナが必要になります。村ではこれまで鳥居、力持、落合などの難視聴地域に共同アンテナを設置し、

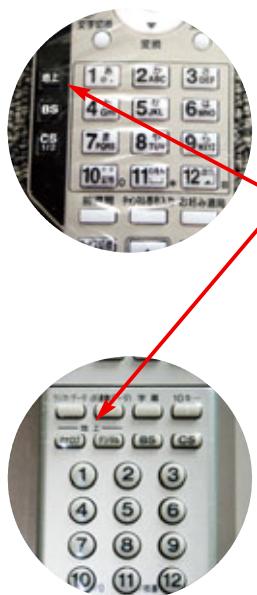
まだまだ高い デジタル対応テレビ

解消に取り組んできました
が、状況によつては、今以上に対応していかなければ、「地上デジタル」の網の目から漏れ、視聴できない可能性もあります。

皆さんの疑問に お答えします！

地上デジタルテレビ放送の完全移行に伴い、5年後に迎えるアナログ放送の終了。「今あるテレビはどうなるの？」「買い換えないければならないの？」そんな皆さんの疑問にお答えします。

Q&A



—わが家にはテレビが3台あります。チューナーは1台でいいのですか？

チューナーは1台のテレビに1台必要ですから、まだ高いイメージがあります。まだ3台必要になります。

現行のブラウン管テレビだと29型で6万円程度で買えるものもあります。まだ高いイメージがあります。

—我が家にはテレビが3台あります。チューナーは1台でいいのですか？

チューナーは1台のテレビに1台必要ですから、まだ高いイメージがあります。